

和の光

宝塚市立西谷中学校



省略

■「好きこそものの上手なれ」

みなさんは、「好きこそものの上手なれ」ということわざを知っていますか。「何事も、好きであってこそ上手になる。今は未熟であっても、本当に好きならば上達する望みがある。」という意味が込められています。好きだから夢中になれる。**好きだから続けることができる。好きなことを見つけること、好きになれることがあることは素敵なことです。**

部活動や趣味、教科の勉強で興味がある分野など、何か好きになれることや夢中になれることを見つけて欲しいと思います。**好きなことを極めることによって、新しい発見が出来たり、新たに好きなことを見つけたりできると思います。その積み重ねが、モチベーションの向上や夢の実現に繋がると思います。**

さて、下記の素敵な絵を見てみなさんはどのようなことを感じますか。実はこの絵は、吉田先生（通級担当・吹奏楽部顧問）が描かれた絵です。趣味で絵画教室に通って描かれた絵です。私は、とても繊細で温かみのある絵だと思います。まさに「好きこそものの上手なれ」だと思います。吉田先生がたくさんの素敵な絵を描かれることを楽しみにしています。

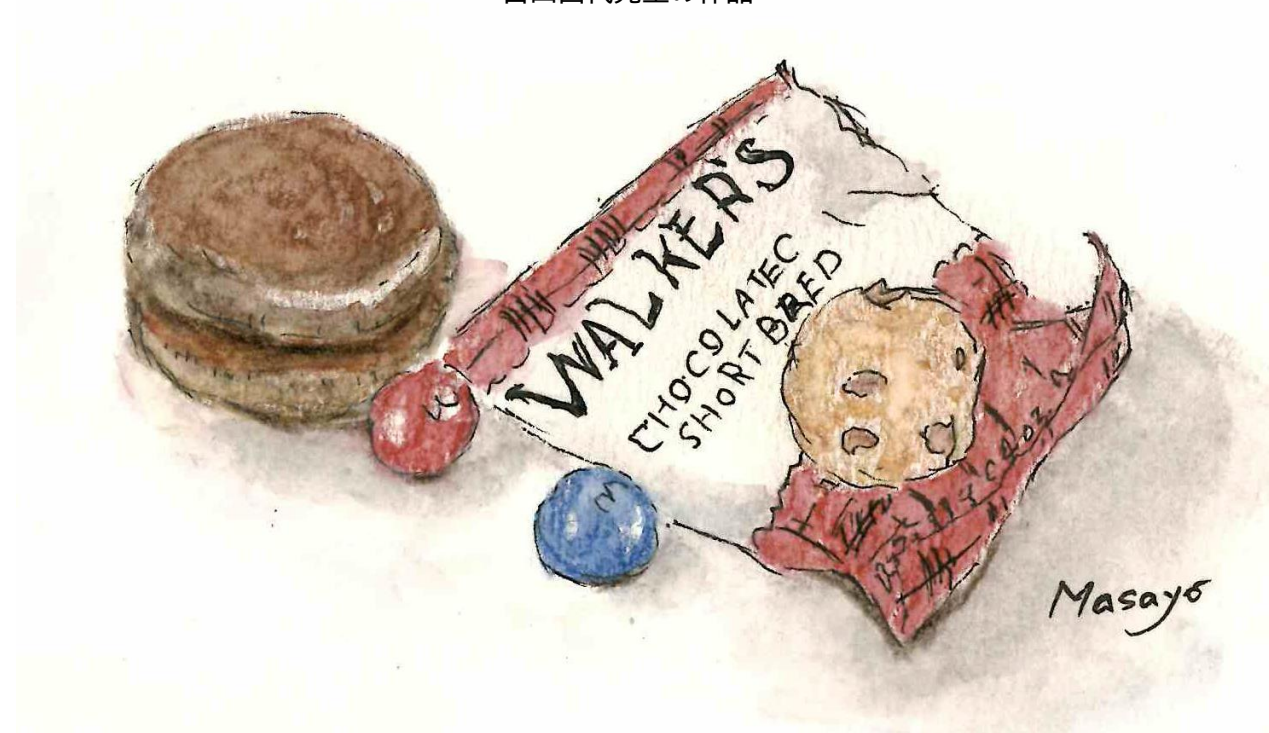


Masayo

吉田昌代先生の作品



吉田昌代先生の作品



吉田昌代先生の作品

地域と共に歩む学校づくり

校長 筒井啓介

西谷地区は宝塚市の面積の3分の2を占め、田園や里山に囲まれた自然豊かな環境にあります。広大な面積を占める西谷地区ですが、人口は約2200人で高齢化が進み子どもの人数が年々減少している状況にあります。

そうした中、令和7年の春から西谷小学校・西谷中学校は小規模特認校として宝塚市内全域からの入学が可能になりました。

私は西谷中学校に勤務して3年目になりますが、その中で感じたことを書いてみたいと思います。

まず、1つ目は**西谷の子どもたちは学年を超えた繋がりが深く、誰に対しても心優しく接することができる事です。**これは、日常の学校生活や行事の中で西谷認定こども園・西谷小学校・西谷中学校が交流を行っており、そのことが成果として表れているのだと思います。6月に開催される「ふれあい運動会」で、異年齢の子どもたちがダンスなどを披露する姿から読み取ることができます。

2つ目は、**地域の皆さんが共に子どもたちを育てていく力を持っている事です。**例をあげてみます。米づくり体験、里山保全体験、西谷ちまきづくり体験、アサギマダラプロジェクト、放課後学習室、地域行事における吹奏楽部の演奏披露、ふる里祭りにおける子どもたちのボランティア活動など、これらは全て地域の皆様のご支援によって成り立っています。地域全体をあげて学校教育を支援していただけることに深く感謝しています。

3つ目は、**子どもたちが母校やふる里西谷を大切に思う事についてです。**先日行われた「ふれあい運動会」にはたくさんの卒業生が応援に来てくれました。中には、受付や片付けの手伝いまでしてくれる卒業生もいました。また、「放課後学習室」では、本校を卒業した2名の大学生がボランティアで、英語や数学の学習指導や進路についての相談に応じていました。このようなことは他の学校では見かけることが少なく、地域として誇れることだと思います。（これに関連したことですが、昨年度の全国学力・学習状況調査で「あなたは地域や社会のために貢献したいですか」という質問がありました。この質問について、西谷中の子どもたちは「ぜひ貢献したい」「どちらかといえば貢献したい」と回答した割合が国や県と比べて顕著に高い結果でした。）

以上、思いつくままに書かせていただきましたが、私はこれら3つのことは「西谷中学校」の大きな財産であり、引続き**これらの財産を大切にしながら、学校は保護者・地域みなさんと力を合わせて西谷の子どもたちを育てていくことが大切だと改めて感じました。**また、今年から始まった**小規模特認校として、宝塚市南部からの子どもたちが通ってみたいと思える魅力ある学校づくりに教職員一丸となって取り組んでいきたい**と思います。

